

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報第 5 号を発表したので送付します。

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報第 5 号

オクラにおけるオオタバコガの防除対策について

7 月の石垣市における調査の結果、複数のオクラほ場でオオタバコガによる果実被害が確認されました（幼虫数：10.8 頭/100 果、平年 4.0 頭/100 果。発生ほ場率：80.0%、平年 44.0%）。本種は発生量の年次変動が大きいことが知られており、今年度はフェロモントラップにおける誘殺数も多い傾向にあります。また中～老齢幼虫は果実や花蕾内に食入するため薬剤がかかりにくいこと、1 頭が複数の果実を食害するため被害が大きくなりやすいことから、早期発見・防除に努めましょう。

1 生態

- (1) 本種は、野菜類、花き類、畑作物、工芸作物等、多くの作物を加害する世界的な大害虫である。日本全域及びヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリアの亜熱帯地域～温帯アジア南部に広く分布し、長距離移動性害虫としても知られている。国内では 1990 年代からたびたび突発的な大発生が見られるようになったが、発生量は年次変動が大きい。
- (2) 成虫は体長 15～20mm で前翅は灰黄褐色、後翅は灰黄色で外縁部の淡褐色が明瞭である（図 1）。雌成虫は 7～10 日間かけて、合計数百～2 千個の卵を果実や花蕾、茎葉に 1～数個ずつばらばらに産下する（図 2）。ふ化直後の幼虫の体長は約 2mm だが、老齢幼虫は 35～40mm に達し、体色は緑色、淡黄褐色～茶褐色など変異が大きく、白く明瞭な気門線、気門下線を有する（図 3～5）。幼虫は 5～6 齢を経過後、浅い土中で蛹化する。卵から成虫までの発育期間は、25℃で約 30 日とされる。
- (3) 県内のオクラでは 5～11 月頃まで発生が見られ、葉、茎、花蕾、花、果実などほぼ全ての部位を食害する（図 6）。移動と食害を繰り返し、1 頭が数個の果実に食入するため、発生量が少なくても被害が大きくなることがある。

2 防除対策及び注意すべき事項

- (1) ほ場をよく観察して幼虫の早期発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- (2) 幼虫は齢期が進むほど薬剤感受性が低下し、中齢幼虫以降は蕾や果実内に潜行するため、できるだけ食入前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。また同系統薬剤の連用を避ける。
- (3) 合成性フェロモン剤による広域防除も有効とされるが、既交尾雌のほ場内への侵入に留意する。



図1 成虫



図2 果実表面に産み付けられた卵



図3 ふ化直後の若齢幼虫



図4 中齢幼虫



図5 老齢幼虫



図6 花蕾に食入する幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

